

### Ⅲ. 研究

#### 8. 邦文誌編集委員会

委員長 波多野 悦 朗

##### 1. 邦文誌（日本外科学会雑誌）について

日本外科学会雑誌は、年間6巻（通常号6巻）を発行している。その編集作業のため邦文誌編集委員会を6カ月に1度程度開催している。

また、令和8（2026）年3月までに第127巻第2号を会員に配本した。

##### 2. 概要について

###### ・通常号

- 1) 発行は、隔月（奇数月）とする。
- 2) 頁数は、基本的に1号あたり150頁程度とする。
- 3) 配本は、平成29（2017）年の第118巻より希望制を開始している。
- 4) 定価は、1冊あたり990円（税込）とする。
- 5) 令和6（2024）年の第125巻第1号より、全頁をフルカラー化とする。

###### ・Online Journal

- 1) 令和2（2020）年度より、論文以外の有料会告・集談会記事等（企業広告、外科専門医試験問題解説を除く）も公開している。なお、第121巻より会員、非会員問わず閲覧できるようにしている。ただし、最新巻は会員のみ閲覧できることとする。

###### ・年間購読料（非会員向け）

- 1) 臨時増刊号「定期学術集会日程号」の発行取り止めに伴い、令和2（2020）年の年間購読料（全6冊）から5,720円（税込）に引き下げた。

###### ・臨時増刊号

- 1) 「定期学術集会日程号」は、令和2（2020）年より発行を取り止めた。

##### 3. 掲載企画について

###### ・依頼原稿

- 1) Editorial（編集委員による）
- 2) 会員へのメッセージ（各委員会の委員長から会員へ、委員会の現状や課題をテーマとした企画）
- 3) 先達に聞く（名誉会長や名誉会頭、名誉会員、特別会員、各編集委員・幹事の恩師などからの若手外科医に対する助言や過去の経験談をテーマとした企画）
- 4) 誰もが輝ける外科の未来へ（外科医の働き方や、若手・女性外科医の活躍や育成、シニアキャリアなどをテーマとした企画）
- 5) 特集（編集委員による、主に各専門領域をテーマとした企画）
- 6) 会員のための企画（編集幹事による、会員に役立つような内容をテーマとした企画）

- 7) 医療訴訟事例から学ぶ（弁護士の立場から過去の医療訴訟事例を解説した企画）
- 8) 手術の tips and pitfalls（編集幹事による、図を中心とした手術の工夫やコツをテーマとした企画）
- 9) 講演の記録（定期学術集会「特別企画」の記録を掲載する企画）
- 10) 特別寄稿（編集委員・幹事による臨時の企画）

#### ・一般投稿論文

- 1) 論文種別は、『会員からの寄稿』『誰もが輝ける外科の未来へ』のみとする。
- 2) 投稿規定は、以下の通りとする。

##### 【会員からの寄稿】

原稿字数 4,000 字以内（4 頁以内）

1. 図表・写真は、1 点につき原稿 400 字相当として換算し、原稿字数内に含める（4 点以内）。
2. 内容要旨・英文抄録・索引用語の字数は、原稿字数内に含める。
3. タイトル頁に題名、所属機関名、氏名の英語表記をつける。

##### 【誰もが輝ける外科の未来へ】

原稿字数 2,400 字以内（2 頁以内）

キーワード：五語以内（必須）

見出し：内容要旨 I. はじめに・・・★. おわりに とする。

1. 図表・写真は、1 点につき原稿 400 字相当として換算し、原稿字数内に含める。
2. 内容要旨・英文抄録・索引用語の字数は、原稿字数内に含める。
3. タイトル頁に題名、所属機関名、氏名の英語表記をつける。

#### ・その他

- 1) 集談会記事（抄録は除く）を無料で受け付けている。
- 2) 理事会ニュース等の会告は、本会ホームページでの公開に一本化している。なお、必要と認められた会告については随時掲載することとしている。

#### 4. 執筆料（謝金）、掲載料について

財務委員会と検討し、平成 30（2018）年度より以下のとおりとしている。（全て税込）

##### ・執筆料（謝金）

- 1) 会員は無料、非会員は 30,000 円。

##### ・掲載料

- 1) 「会員からの寄稿」は、33,000 円（4 頁以内）、「誰もが輝ける外科の未来へ」は、16,500 円（2 頁以内）。どちらも超過分は 1 頁毎に 16,500 円。
- 2) 有料会告（会告・学会案内・地方会案内など）は、22,000 円。

#### 5. その他について

##### ・配本希望制

- 1) 配本、送料にあたっての会費以外の料金徴収はしない。
- 2) 配本を希望しない場合でも、会員は Online Journal より閲覧が可能である。
- 3) 配本希望の申し出を受けた場合は、改めて配本中止の申し出があるまで、継続して配本する。

- 4) 途中で配本中止の申し出を受けた場合は、原則として翌年発行の巻から配本中止とする（当該年の第6号までは配本する）。
- 5) 配本を希望しなかった場合も、改めて配本希望の申し出があれば、その翌年発行の巻から配本する。

・「医療訴訟事例から学ぶ」の書籍販売

第104巻第6号（平成15/2003年発行）から第116巻第6号（平成27/2015年発行）までに掲載した87事例から47事例を抜粋し、平成28（2016）年4月から書籍（電子書籍を含む）として販売している。

なお、販売は全て出版社である株式会社杏林舎に委託している。

・転載許諾

- 1) 審査については、委員会にて定めた以下の規定に従い、原則委員長判断により許諾を判断する。規定外の申請については委員会にて審議し、決定する。

①転載先が下記のいずれかであること。

- ・学術・教育活動（論文、学会発表、業績集等を含む）
- ・医療関連企業等の印刷物・ウェブサイト等
- ・出版社等の印刷物・ウェブサイト等
- ・その他（委員会で認められたもの）

②転載点数が、1論文あたり原則として3点以内であること。

③修正がないこと。（原則的に図表を含めて修正は認めていない。）

④「日本外科学会雑誌第○巻第○号（○年）より転載」の一文が明記されていること。

その他の事項は、STM出版ガイドラインに準ずる。

- 2) 転載料については、徴収することとし、転載料は以下のとおりとする。

種別	転載料
1) 学術・教育活動（論文、学会発表、業績集等を含む）	無料
2) 医療関連企業等の印刷物・ウェブサイト等	55,000円（媒体ごとに徴収）
3) 出版社等の印刷物・ウェブサイト等	55,000円（媒体ごとに徴収）
4) その他（委員会で認められたもの）	原則、55,000円

※税込とする。

※出版物で5,000部を超過する場合は、1,000部追加ごとに5,500円（税込）徴収する（2022年9月12日より）。

ただし、ウェブサイトについては閲覧数等を問わないこととする。

・過去の日本外科学会雑誌のOnline Journal化

会員の学術的な利便性を高めるため、日本外科学会雑誌の印刷業等の委託業者である大村印刷株式会社と協力しながら、過去の第1巻（明治33/1900年）から第105巻（平成16/2004年）までも閲覧できるよう準備を進めている。なお、過去の論文は個人情報が入っているものがあるため、Online Journalのセキュリティを強化、検索機能の強化を行った。現時点では、第15巻（大正3/1914年）発刊の以降の全文が閲覧でき、準備が整い次第順次遡って公開していく予定である。

・複写権委託

一般社団法人学術著作権協会には、冊子版、ならびに電子版の複写権を管理委託している。学術著作権協会から、AIの機械学習を目的とした利用に関する管理および権利委託について協力を求める要望があ

り、これを了承することとした。

また、企業等に対して論文の有償頒布を代行する「文献提供事業」開始の紹介があり、本学会においても著作権等の取扱いを確認した上で、同事業を委託する方向で現在検討を進めている。

・ 出版物の寄贈

国立国会図書館に、冊子版のみ納入している。

・ 商標登録

「日本外科学会雑誌」の誌名の商標登録を出願した。

## 9. 英文誌編集委員会

委員長 吉住 朋晴

### 1. 英文誌 (Surgery Today) について

本誌は、年間12冊、電子ジャーナルを含めて約40,000部を発行している。令和7(2025)年中に812編の投稿があった。同年発行の第55巻には220編が掲載され、令和7(2025)年の採用率は31.4%であった。

平成23(2011)年11月よりOnline Firstでの出版を開始している。Online Firstの出版により号の出版を待たずに論文ごとの電子版の出版が可能となり、入稿から掲載までの期間は約1カ月となっている。Online Firstに掲載された論文は、電子版出版は正式な出版と認められておりDOI (Digital Object Identifier) のコードにより、頁なしでも引用可能である。令和7(2025)年のOnline Firstの出版による論文数は、Original: 192編、How To Do It: 11編、Review Article: 12編、Short Communication: 4編、Others: 5編となっている。

### 2. Surgery Today Table of Contents について

平成28(2016)年2月よりSpringer Nature社へ会員のメールアドレスを提供しており、オプト・アウト方式で会員各位に毎月配信を行っている。

### 3. Impact Factor について

令和6(2024)年のImpact Factor (IF) は、小数点第1位までの表記となり、1.6となった。

### 4. 優秀論文賞 (Best Surgery Today Award) について

令和6(2024)年に掲載された論文 (vol. 54) を対象として、一般・小児、消化管 (上部・下部)、呼吸器、乳腺・甲状腺、心臓血管、肝胆膵・移植の7分野で授賞者を決定した (90頁)。

### 5. Citation Award について

令和6(2024)年のCitation Awardとして6名の授賞者を決定した (90~91頁)。

### 6. Best Reviewers Award について

Best Reviewer Award 選定の条件に従って、令和6(2024)年の対象者を絞り込んだリストで審議した結果、合計8名となり、定数の5名を超過するものの、多くの会員の先生方のモチベーションにも繋がる

ことから、8名全員に授賞することとした(91頁)。

また、令和7(2025)年の対象者も絞り込んだリストで審議した結果、5名の授賞者を決定した(91頁)。

なお、現在の選定条件である「授賞者は5年間 Best Reviewer Award を授賞できない」との条件については、令和8(2026)年度から「授賞者は2年連続で授賞できない」という条件とした。

## 7. 出版委託業者について

出版委託業者の Springer Nature 社との契約は令和8(2026)年12月末日までとなることから、競合他社との相見積などによって選定作業を行った。その選定にあたっては、HPにRFPを掲載し、主にCOIフォームおよび Author Agreement の電子化、ならびにオープンアクセスにした場合の掲載料(APC)などを中心に令和7(2025)年8月にコンペティションを行い、理事会で承認された結果、株式会社杏林舎に決定した。

現在、移行作業と共に、会員の負担をなるべく軽減してフルオープン化を進めるべく準備を進めているところで、5月15日をもって現行下での投稿受付を停止し、6月15日から新たに投稿受付を開始予定である。

## 8. 商標登録の件

「日本外科学会」と「Japan Surgical Society」の名称、および市民講座の「オペスル」の商標登録が行われたことを受けて、ハゲタカジャーナル対策などのためにも、「Surgery Today」の雑誌名も商標を出願した。

## 1. 論文種類別 投稿数 (投稿日による集計)

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
Case Report	753	409	2										
Clinical Original	465	423	485	511	474	579	533	758	648	586	559	581	624
Experimental Original	56	56	65	51	48	66	55	76	66	53	47	61	33
How To Do It	38	48	50	55	49	52	63	98	60	60	39	49	46
Invited Review Article	8	11	8	12	5	9	13	9	2	2			3
Letter to the Editor	9	13	4	9	15	7	9	12	6	17	10	18	13
Other	3	19	12										
Review Article	47	50	62	45	39	54	74	107	74	75	55	50	77
Short Communication	15	30	49	27	26	34	22	63	24	30	31	20	16
<b>総計</b>	<b>1394</b>	<b>1059</b>	<b>737</b>	<b>710</b>	<b>656</b>	<b>801</b>	<b>769</b>	<b>1123</b>	<b>880</b>	<b>823</b>	<b>741</b>	<b>779</b>	<b>812</b>
<b>月平均</b>	<b>116</b>	<b>88</b>	<b>61</b>	<b>59</b>	<b>55</b>	<b>67</b>	<b>66</b>	<b>94</b>	<b>73</b>	<b>69</b>	<b>62</b>	<b>65</b>	<b>68</b>

※ 取り下げられた論文 (Withdrawn) は含まない

## 2. 論文種類別 判定結果と採択率 (最終判定日による集計)

	2023			2024			2025		
	Accept	Reject	採択率	Accept	Reject	採択率	Accept	Reject	採択率
Case Report									
Clinical Original	115	427	21.2%	160	395	28.8%	199	405	32.9%
Experimental Original	4	41	8.9%	9	50	15.3%	11	24	31.4%
How To Do It	8	34	19.0%	7	40	14.9%	14	31	31.1%
Invited Review Article							3		100.0%
Letter to the Editor	4	5	44.4%	7	10	41.2%	7	5	58.3%
Review Article	6	46	11.5%	5	44	10.2%	10	65	13.3%
Short Communication	8	23	25.8%	7	11	38.9%	4	12	25.0%
<b>総計</b>	<b>145</b>	<b>576</b>	<b>20.1%</b>	<b>195</b>	<b>550</b>	<b>26.2%</b>	<b>248</b>	<b>542</b>	<b>31.4%</b>

### 3. 地域別 投稿数 (投稿日による集計)

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
Africa	9	11	16	14	8	12	12	21	14	12	19	18	18
Americas	43	42	21	22	15	19	8	36	27	19	11	17	18
Asia	483	402	207	206	170	266	260	407	309	356	295	308	283
Europe	259	172	136	104	112	125	122	149	98	71	45	37	50
Japan	596	430	355	363	350	378	344	505	429	364	370	394	440
Oceania	4	2	2	1	1	1	3	5	3	1	1	5	3
<b>総計</b>	<b>1394</b>	<b>1059</b>	<b>737</b>	<b>710</b>	<b>656</b>	<b>801</b>	<b>769</b>	<b>1123</b>	<b>880</b>	<b>823</b>	<b>741</b>	<b>779</b>	<b>812</b>

### 4. 地域別 判定結果 (最終判定日による集計)

	2023			2024			2025		
	Accept	Reject	採択率	Accept	Reject	採択率	Accept	Reject	採択率
Africa	1	19	5.0%		16	0.0%	2	16	11.1%
Americas	4	8	33.3%	1	15	6.3%	1	17	5.6%
Asia	9	278	3.1%	22	274	7.4%	19	267	6.6%
Europe	4	41	8.9%	2	37	5.1%	6	38	13.6%
Japan	127	229	35.7%	170	203	45.6%	220	201	52.3%
Oceania		1	0.0%		5	0.0%		3	0.0%
<b>総計</b>	<b>145</b>	<b>576</b>	<b>20.1%</b>	<b>195</b>	<b>550</b>	<b>26.2%</b>	<b>248</b>	<b>542</b>	<b>31.4%</b>

## 5. カテゴリー別 判定結果 (最終判定日による集計)

	2023			2024			2025		
	Accept	Reject	採択率	Accept	Reject	採択率	Accept	Reject	採択率
<b>Adrenal gland</b>		<b>1</b>	<b>0.0%</b>		<b>1</b>	<b>0.0%</b>			
Clinical Original		1	0.0%						
Experimental Original					1	0.0%			
<b>Anus</b>		<b>7</b>	<b>0.0%</b>	<b>1</b>	<b>5</b>	<b>16.7%</b>			
Clinical Original		5	0.0%	1	3	25.0%			
Experimental Original		2			2	0.0%			
<b>Bile ducts/Gall bladder</b>	<b>2</b>	<b>28</b>	<b>6.7%</b>	<b>6</b>	<b>18</b>	<b>25.0%</b>	<b>13</b>	<b>20</b>	<b>39.4%</b>
Clinical Original	2	27	6.9%	6	16	27.3%	13	20	39.4%
Experimental Original		1	0.0%		2	0.0%			
<b>Breast</b>	<b>3</b>	<b>13</b>	<b>18.8%</b>	<b>6</b>	<b>16</b>	<b>27.3%</b>	<b>3</b>	<b>9</b>	<b>25.0%</b>
Clinical Original	3	11	21.4%	6	16	27.3%	3	9	25.0%
Experimental Original		2	0.0%						
<b>Cardiovascular</b>	<b>8</b>	<b>29</b>	<b>21.6%</b>	<b>4</b>	<b>14</b>	<b>22.2%</b>	<b>8</b>	<b>15</b>	<b>34.8%</b>
Clinical Original	8	27	22.9%	3	12	20.0%	6	14	30.0%
Experimental Original		2	0.0%	1	2	33.3%	2	1	66.7%
<b>Colon/Rectum</b>	<b>17</b>	<b>84</b>	<b>16.8%</b>	<b>42</b>	<b>73</b>	<b>36.5%</b>	<b>63</b>	<b>91</b>	<b>40.9%</b>
Clinical Original	16	83	16.2%	38	68	35.8%	60	89	40.3%
Experimental Original	1	1	50.0%	4	5	44.4%	3	2	60.0%
<b>Esophagus</b>	<b>5</b>	<b>21</b>	<b>19.2%</b>	<b>8</b>	<b>20</b>	<b>28.6%</b>	<b>9</b>	<b>26</b>	<b>25.7%</b>
Clinical Original	5	19	20.8%	8	18	30.8%	9	25	26.5%
Experimental Original		2	0.0%		2	0.0%		1	0.0%
<b>Liver</b>	<b>6</b>	<b>32</b>	<b>15.8%</b>	<b>14</b>	<b>30</b>	<b>31.8%</b>	<b>13</b>	<b>22</b>	<b>37.1%</b>
Clinical Original	6	29	17.1%	14	29	32.6%	12	22	35.3%
Experimental Original		3	0.0%		1	0.0%	1		100.0%
<b>Lung/Mediastinum</b>	<b>30</b>	<b>38</b>	<b>44.1%</b>	<b>33</b>	<b>43</b>	<b>43.4%</b>	<b>25</b>	<b>46</b>	<b>35.2%</b>
Clinical Original	30	33	47.6%	33	41	44.6%	24	45	34.8%
Experimental Original		5	0.0%		2	0.0%	1	1	50.0%

	2023			2024			2025		
	Accept	Reject	採択率	Accept	Reject	採択率	Accept	Reject	採択率
<b>Others</b>	<b>15</b>	<b>66</b>	<b>18.5%</b>	<b>10</b>	<b>46</b>	<b>17.9%</b>	<b>21</b>	<b>51</b>	<b>29.2%</b>
Clinical Original	14	53	20.9%	7	36	16.3%	19	44	30.2%
Experimental Original	1	13	7.1%	3	10	23.1%	2	7	22.2%
<b>Pancreas</b>	<b>5</b>	<b>37</b>	<b>11.9%</b>	<b>8</b>	<b>29</b>	<b>21.6%</b>	<b>22</b>	<b>26</b>	<b>45.8%</b>
Clinical Original	5	35	12.5%	8	29	21.6%	22	26	45.8%
Experimental Original		2	0.0%						
<b>Pediatric surgery</b>	<b>10</b>	<b>14</b>	<b>41.7%</b>	<b>7</b>	<b>15</b>	<b>31.8%</b>	<b>11</b>	<b>12</b>	<b>47.8%</b>
Clinical Original	10	14	41.7%	6	12	33.3%	11	12	47.8%
Experimental Original				1	3	25.0%			
<b>Plastic surgery</b>		<b>16</b>	<b>0.0%</b>		<b>8</b>	<b>0.0%</b>	<b>1</b>	<b>9</b>	<b>10.0%</b>
Clinical Original		14	0.0%		5	0.0%	1	8	11.1%
Experimental Original		2	0.0%		3	0.0%		1	0.0%
<b>Portal hypertension</b>		<b>1</b>	<b>0.0%</b>						
Clinical Original		1	0.0%						
Experimental Original									
<b>Stomach/Duodenum</b>	<b>14</b>	<b>43</b>	<b>24.6%</b>	<b>22</b>	<b>47</b>	<b>31.9%</b>	<b>15</b>	<b>33</b>	<b>31.3%</b>
Clinical Original	13	40	24.5%	22	42	34.4%	14	31	31.1%
Experimental Original	1	3	25.0%		5	0.0%	1	2	33.3%
<b>Thyroid/Head and neck</b>	<b>1</b>	<b>14</b>	<b>6.7%</b>	<b>5</b>	<b>10</b>	<b>33.3%</b>	<b>3</b>	<b>14</b>	<b>17.6%</b>
Clinical Original	1	14	6.7%	5	9	35.7%	2	14	12.5%
Experimental Original					1	0.0%	1		100.0%
<b>Vascular</b>	<b>3</b>	<b>11</b>	<b>21.4%</b>	<b>3</b>	<b>5</b>	<b>37.5%</b>	<b>3</b>	<b>7</b>	<b>30.0%</b>
Clinical Original	2	10	16.7%	3	4	42.9%	3	6	33.3%
Experimental Original	1	1	50.0%		1	0.0%		1	0.0%

以上

## 10. Case Report 誌編集委員会

委員長 猪股 雅史

### 1. 投稿状況について

令和7（2025）年の年間投稿数は808編となったが、投稿についてはかなり順調である。

また、令和7（2025）年の月別投稿数については、6月が一番多く80編となり、Acceptは計326編で、採用率については、平均値は51%となった。

国別投稿数は約8割が日本からの投稿となっており、続いて中国、イランとなっている。

令和7（2025）年のAcceptされるまでの日数は平均82日となっているため、査読もスムーズに行われていると思われる。

### 2. Best Reviewer Award 選定の件について

Best Reviewer Award 選定の条件に従って、Agreedの編数をメインに令和6（2024）年の対象者を絞り込んだリストで審議した結果、定数の5名を超過するものの、9名に授賞することを決定した（91頁）。

また、令和7（2025）年の対象者も絞り込んだリストで審議した結果、5名の授賞者を決定した（91頁）。

なお、現在の選定条件である「授賞者は5年間Best Reviewer Awardを授賞できない」との条件については、Surgery TodayのBest Reviewer Award選定条件と同様に、令和8（2026）年度から「授賞者は2年連続で授賞できない」という条件となった。

### 3. Impact Factor について

令和6（2024）年のIFは、0.7となった。令和7（2025）年は0.5の予想値だが、自己引用率を20%程度まで上げることができると、IFも向上する可能性があるものの、Case Report誌なので難しいと思われる。引用推奨論文を執筆し、J-STAGEやジャーナルサイトに掲示することでIF値を上げるのに繋がると思われるが、そもそもCase Report誌にとってIFを上げることにどれだけ留意するか、ということが今後の検討課題である。

### 4. 商標登録の件

「Surgical Case Reports」も「Surgery Today」と「日本外科学会雑誌」と同様に商標登録を出願した。

## 1. 論文審査状況報告

2026年1月15日 国際文献社作成

種別ごとの年別投稿数 ※データ集計期間：2026年1月14日まで（以下同）

	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
Case Report	436	686	664	571	657	709	804	43
Letter to the Editor	4	2	2	4	6	7	4	0
Editorial	0	0	0	0	0	0	0	0
Total	440	688	666	575	663	716	808	43

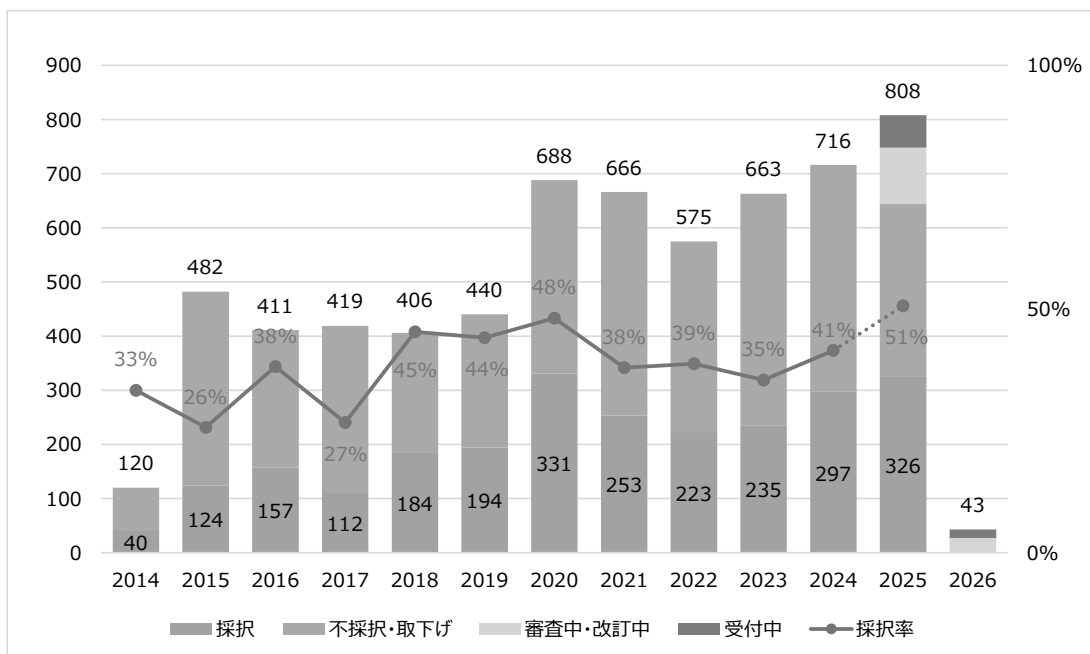
（投稿後、著者により削除された論文を除く）

### 月別投稿数

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2022	52	52	60	58	48	44	44	54	42	39	42	46
2023	52	51	57	56	57	45	55	61	49	55	54	71
2024	73	65	71	69	58	62	65	86	9	45	50	63
2025	64	60	75	60	56	80	61	67	73	72	63	77
2026	43											

（投稿後、著者により削除された論文を除く）

### 年別投稿数と採択率



**2026 年の国別投稿数**

国名	投稿数
JAPAN	35
CHINA	4
UNITED KINGDOM	1
POLAND	1
ETHIOPIA	1
PAKISTAN	1
総計	43

**2025 年の国別投稿数**

国名	投稿数
JAPAN	685
CHINA	41
IRAN (ISLAMIC REPUBLIC OF)	8
TAIWAN	4
SAUDI ARABIA	4
TUNISIA	4
INDIA	4
UNITED STATES	4
TURKEY	3
AUSTRALIA	3
PALESTINIAN TERRITORY	3
SUDAN	2
GREECE	2
GERMANY	2
IRAQ	2
BURKINA FASO	2
PAKISTAN	2
ETHIOPIA	2
ECUADOR	2
YEMEN	2
Others	21
総計	808

**2025 年の国別採択数**

国名	採択数
JAPAN	317
CHINA	4
VIET NAM	1
TAIWAN	1
UNITED STATES	1
GERMANY	1
SWITZERLAND	1
総計	326

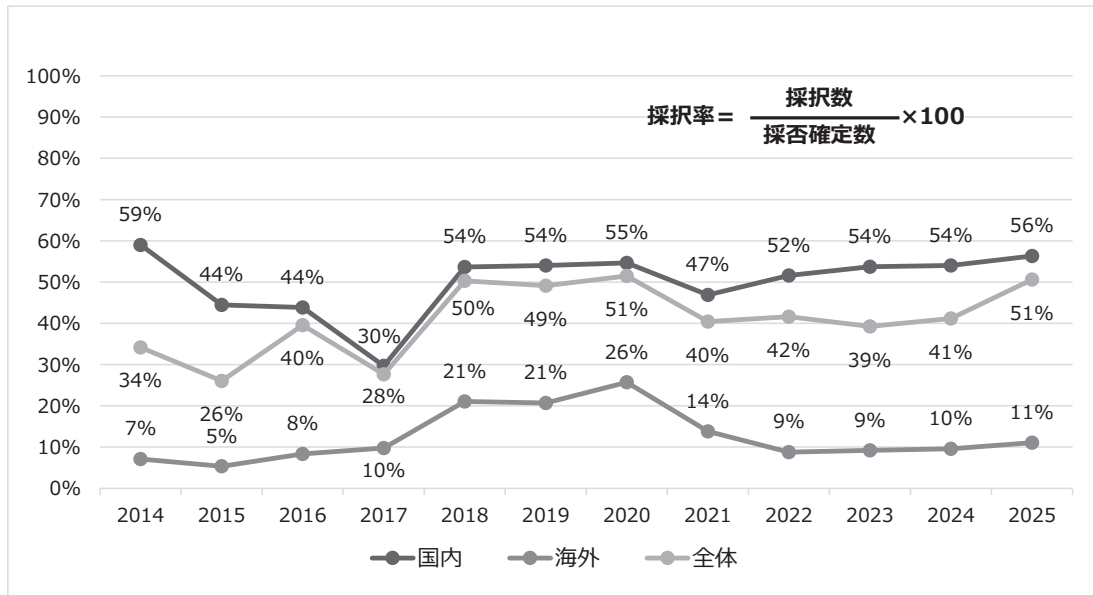
## 2024年の国別投稿数

国名	投稿数
JAPAN	513
CHINA	44
UNITED STATES OF AMERICA	18
IRAN, ISLAMIC REPUBLIC OF	15
INDIA	14
SAUDI ARABIA	9
SPAIN	7
EGYPT	6
TÜRKIYE	6
SYRIAN ARAB REPUBLIC	5
ITALY	5
GERMANY	5
PAKISTAN	5
THAILAND	4
QATAR	3
UNITED KINGDOM	3
INDONESIA	3
ARGENTINA	3
CAMEROON	3
AUSTRALIA	3
POLAND	3
ETHIOPIA	3
SWITZERLAND	2
BELGIUM	2
ECUADOR	2
Others	21
総計	721

## 2024年の国別採択数

国名	採択数
JAPAN	277
UNITED STATES OF AMERICA	3
CHINA	3
GERMANY	3
UNITED KINGDOM	2
CAMEROON	2
GREECE	1
INDIA	1
TÜRKIYE	1
PAKISTAN	1
ITALY	1
QATAR	1
SAUDI ARABIA	1
総計	297

### 年別採択率（全体・国内・海外）



### 審査平均日数（著者改訂期間を含む）

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
投稿から採択まで	87	83	73	82	78	79	94	82
投稿から不採択まで	28	28	31	30	30	30	40	32

### 審査平均日数（著者改訂期間を含まない）

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
投稿から採択まで	24	23	20	25	22	21	55	43
投稿から不採択まで	28	24	28	28	29	28	36	28

## 領域別投稿数

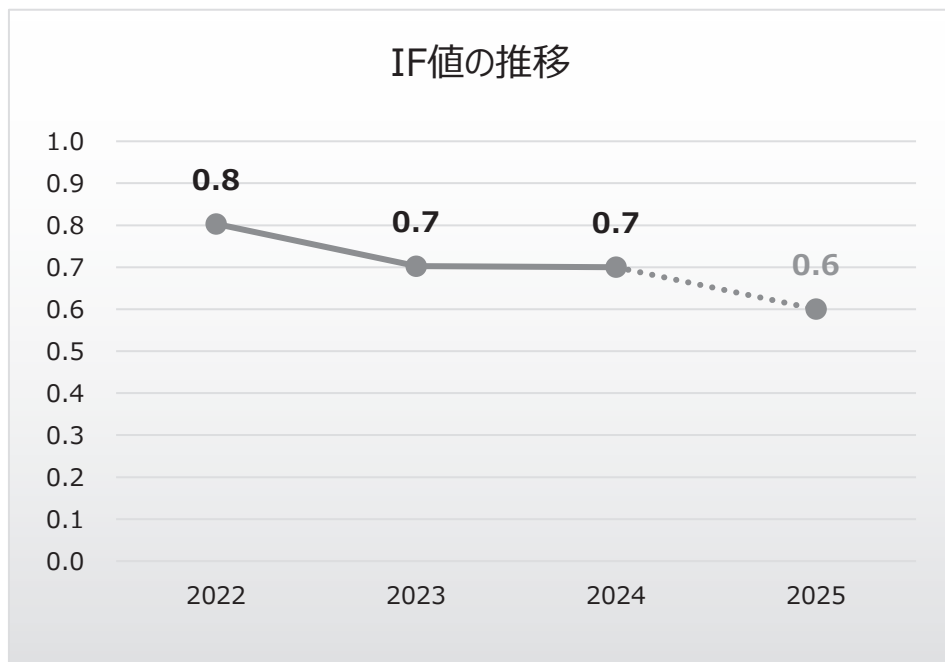
分野名	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
Abdominal wall							8	70	4
Adrenal gland	2	2	3	9	6	10	4	6	
Anus	3	7	10	10	17	14	24	14	1
Bile ducts/Gall bladder	35	40	49	52	40	47	56	64	5
Breast	27	15	45	30	34	45	50	48	3
Cardiovascular	40	50	59	76	54	61	74	105	3
Colon/Rectum	85	78	134	113	106	139	161	196	11
Emergency	63	61	106	114	99	141	137	113	10
Esophagus	28	34	55	37	35	57	67	58	2
Liver	46	61	80	79	66	84	71	104	1
Lung/Mediastinum	58	53	82	105	75	92	109	143	8
Pancreas	35	48	73	71	66	55	68	87	7
Pathology	38	38	61	62	31		22	126	12
Pediatric surgery	17	31	39	51	50	48	59	65	
Portal hypertension	2	1	9	2	4	8	3	6	
Stomach/Duodenum	50	78	100	84	85	111	115	129	6
Thyroid	11	10	17	23	16	12	16	14	
Vascular (peripheral/vein)	22	32	33	48	33	47	36	57	1

※1 論文で複数のカテゴリーを選んでいる場合は全てのカテゴリーをカウント

## 2025年度IF予測値

### 0.6 ※2026年1月15日時点の「Web of Science」データによる

IF	0.8		0.7		0.7		0.6	
引用年	2022		2023		2024		2025	
引用数	289	176	208	137	163	138	155	156
IF分子	465		345		301		311	
IF分母	579		491		435		488	
掲載数	312	267	269	222	222	213	214	274
掲載年	2020	2021	2021	2022	2022	2023	2023	2024



## 11. 臨床研究推進委員会

委員長 宮 川 繁

### 1. 「日本外科学会臨床研究助成」、及び「若手外科医のための臨床研究助成」の授賞者について

令和7年度から「若手外科医のための臨床研究助成」の採択件数が、臨床研究部門が3件、基礎研究部門が5件の計8件と、授賞枠が拡大した。

このことから、「日本外科学会臨床研究助成」(500万円×1件)と「若手外科医のための臨床研究助成」(100万円×8件)の募集を行い、審査した。

【日本外科学会臨床研究助成】(JSS Clinical Investigation Project Award) 授賞者 1名

8件の研究課題の申請から、1件を採択した(91～92頁)。

【若手外科医のための臨床研究助成】(JSS Young Researcher Award) 授賞者 8名(臨床研究部門 3名、基礎研究部門 5名)

44件(臨床研究部門:26件、基礎研究部門:18件)の研究課題の申請があり、臨床研究部門は、申請者が申請された分野に基づき、分野毎の委員に依頼し、複数の分野に跨る研究課題の場合は、該当するすべての分野の委員に依頼し、1次審査を行った。また、基礎研究部門は、分野問わずすべて委員に依頼し、1次審査を行った。

その後、どちらの部門も各研究課題の平均点数を算出した上で、最終選考を行い、臨床研究部門3件、基礎研究部門5件を採択(最終審査)した(92頁;分野毎の諾否ではないため、授賞は選択分野に影響されない旨記載している)。

### 2. 令和7年度臨床研究助成「日本外科学会臨床研究助成」、及び「若手外科医のための臨床研究助成」の授賞式、及び成果発表について

令和7年度「日本外科学会臨床研究助成」、及び「若手外科医のための臨床研究助成」の授賞者の授賞式は、4月22日に行われる令和8年度定時社員総会内の表彰式に組み込む形で執り行う。

成果発表は、第126回定期学術集会の3日目にあたる4月25日に、セッションを設けて行うこととした。

### 3. 臨床研究セミナー(eラーニング)について

従来の参集形式から、eラーニング形式に切り替わったことに伴い、毎年のように企画を立てる必要はなくなったことから、「観察研究の統計」と「臨床試験の統計」のテーマをセットにしたコンテンツを、5年に1回の頻度で制作して、差し替えることとしている。

### 4. NCDデータを利用した複数領域にまたがる臨床研究について

NCDデータを利用した臨床研究は、当該学会が所管するデータ以外の領域にまたがる研究を行おうとする場合には、個別に該当する学会の承諾を得た上で、主たる学会からNCDに申請する必要がある。手続きに煩雑な点がある。そこで、複数領域にまたがるNCDデータの利用につきまして、円滑な協議に資するため、学会間の交渉機関として、「NCD臨床研究推進委員会」(各領域の学会とNCDの代表者が加わっ

た拡大的な組織)が設置されている。

### 1) 複数領域の定義について

「複数領域にまたがる」ことの定義の認識に齟齬があったことから、学会単位ではなく、あくまでもデータベース上の領域の枠組みを基準として考え、各領域枠のデータベースにまたがった場合が、「複数領域にまたがる」と定義している。

## NCDデータにおける「領域の枠組み」について

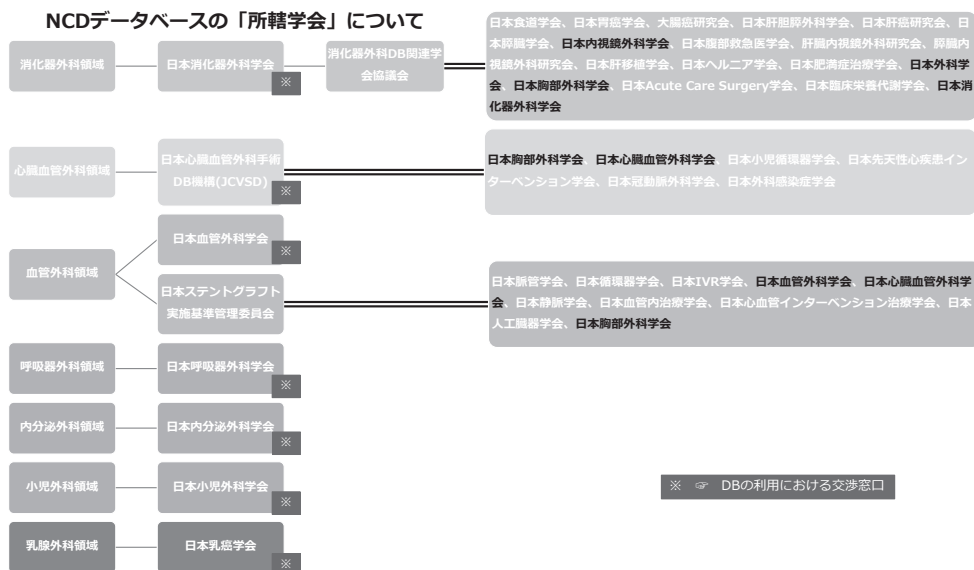


### 領域の枠組みにおける注釈 (データベースの分類)

- ・研究テーマが、左記の複数の領域枠にまたがる場合、「外科横断研究」として扱う。
- ・研究計画書に学会単位ではなく、使用予定のデータベースを記載いただきたい。
- ・外科学会所轄の「外科共通」は、各データベースに既に含まれる項目である。
- ・左記の同一の領域内であっても、データベースの所轄学会が異なる場合があるため、追加の許諾を必要とする場合がある。

### 2) NCD データベースの所轄について

前述 1) の領域の枠組みを基準に考えた場合のデータベースの所轄を確認すべく、あらかじめ「NCD 臨床研究推進委員会」参加学会に対して、当該領域の関連学会などと協議の場を設けられているか否かについて照会を行い、NCD データベースの取次先の窓口を示した図が、以下であり、「NCD 臨床研究推進委員会」から各領域の取次先窓口へデータベースの利用許諾についての連絡を取る際の参考とする。



### 3) 令和7年度の申請研究課題について

令和7年度も募集したところ、本会より「食道切除と肺切除の既往が互いの手術成績に及ぼす影響：NCDを用いた多領域横断研究」と「居住環境因子が肺癌の発生に与える影響に関する疫学的研究」の2件と、日本心臓血管外科学会より「心臓腫瘍手術の短期成績とリスク因子の全国的解析：再手術症例を含めた検討 Nationwide Analysis of Short-term Outcomes and Risk Factors in Cardiac Tumor Surgery Including Reoperations」の1件と、日本呼吸器外科学会より「消化器外科領域における悪性腫瘍の手術既往を有する小型非小細胞肺癌において術式が周術期成績に与える影響」の1件の申請がなされ、その内本会の「居住環境因子が肺癌の発生に与える影響に関する疫学的研究」と日本心臓血管外科学会より申請のあった研究課題は不採択となった。なお、本会より申請のあった「食道切除と肺切除の既往が互いの手術成績に及ぼす影響：NCDを用いた多領域横断研究」と日本呼吸器外科学会より申請のあった研究課題についてはNCDと協議中である。

## 12. 利益相反委員会

委員長 尾 藤 祐 子

当該の対象者には、「役員等の利益相反自己申告書」を提出してもらい、本学会事務所で厳重に管理している。なお、現在の本学会の「役員などの利益相反自己申告書」はWeb回答フォームを介して回収している。

なお、利便性の向上などのため、他学会に倣って専用システムを導入する方針を採ることとし、臨床研究法の改正に伴う国による電子化の動きも注視しながら、検討中である。

## 13. 国際委員会

委員長 湊 谷 謙 司

### 1. 外国人名誉会員について

新外国人名誉会員として、第1号議案で報告のあった Thomas Mathijs van Gulik 先生を推薦した。

推薦にあたっては、本会の外国人名誉会員としてのクオリティ保持を目的として、令和4（2022）年度より追加された推薦規定「本会への貢献度」も考慮している。

### 2. 若手外科医の学術交流制度（旅費給付）について

American College of Surgeons（ACS）と German Society of Surgery（GSS）とは、それぞれの学術集会にお互いの学会から推薦のあった若手外科医を1名ずつ招聘し、学術発表の機会を与える交流を行っている。

#### 【ACS】

第111回 ACS 出席（令和7年）本会から ACS へ参加

→山本 健人正会員（田附興風会医学研究所北野病院）

第126回（令和8年）ACS から本会定期学術集会へ参加

→未定

第112回 ACS 出席（令和8年）本会から ACS へ参加予定

→湯川 恭平正会員（九州大学大学院 消化器・総合外科）

第127回（令和9年）ACS から本会定期学術集会へ参加予定

→未定

※第112回 ACS 出席者まで決定しているため、来年（第113回）の ACS 参加者を今年の9月～11月に募集予定である。選考においては発表予定の抄録と業績を中心に評価する。

#### 【GSS】

会期重複により、本年は相互の学会への参加予定なし。令和9（2027）年度より再開予定。

※来年度の GSS 出席者は、今年の5月～7月に募集予定である。選考においては発表予定の抄録と業績を中心に評価する。

### 3. 各国際学会代表講演について

学術集会で各学会の代表者の講演を行っている。第126回では、以下の7名に講演いただくこととなった。

【American College of Surgeons（ACS）】Anton N. Sidawy 先生

【German Society of Surgery（GSS）】会期重複のため今回招聘無し。

【Society of University Surgeons（SUS）】Danny Chu 先生

【College of Surgeons of East, Central and Southern Africa（COSECSA）】Laston Chikoya 先生

【The Association of Surgeons of India（ASI）】Maruthu Pandian Dhevendran 先生

【Korean Surgical Society（KSS）】HEE Chul Yu 先生

【Taiwan Surgical Association (TSA)】 Chien-Sung Tsai 先生

【Italian Society of Surgery (Societa' Italiana di Chirurgia) (SIC)】 Ludovico Docimo 先生

#### 4. Academic Surgical Congress (ASC) との交流について

Society of University Surgeons (SUS) と Association for Academic Surgery (AAS) の合同年次総会である Academic Surgical Congress (ASC) では、本会から毎年約 10 演題が受け入れられており、当会会員の ASC 学術集会への参加費は本会で負担することとしている。

令和 8 年 2 月 3 日～5 日に開催された第 21 回 ASC には、本委員会による審査で選ばれた以下の 11 名が本会代表演者として発表した。また、本会の代表者として副理事長と委員長が参加した。

半田 良憲正会員 (県立広島病院呼吸器外科)

小花 彩人正会員 (オハイオ州立大学移植外科)

芝本 純正会員 (静岡県立静岡がんセンター肝胆膵外科)

木下 郁彦正会員 (九州大学大学院消化器・総合外科)

渡邊 拓弥正会員 (聖隷三方原病院呼吸器センター外科)

平田 雄紀正会員 (国立病院機構東京医療センター)

森田 覚正会員 (慶應義塾大学医学部外科学教室)

中田憲太郎正会員 (岡山大学呼吸器乳腺内分泌外科)

田嶋 哲也正会員 (京都大学 肝胆膵・移植外科)

鶴野 雄大正会員 (鹿児島大学病院小児外科)

亀田柚妃花正会員 (SUBARU 健康保険組合太田記念病院心臓血管外科)

※次回の第 22 回 ASC 出席者は、今年の 5～7 月を募集期間とする予定である。

#### 5. American College of Surgeons (ACS) について

ACS の Clinical Congress の会期中に、ACS 日本支部との共催で情報交換会を行った。

#### 6. 英国外科学会 International Surgical Training Programme (ISTP) について

ISTP は英国の Royal College of Surgeon が運営しており、英国以外の若手外科医師が英国各地の病院の外科、外傷外科、救急を含む様々な診療科で臨床研修が出来る制度である。

これまで、以下の 4 名が IELTS の基準をクリアし、研修を行っている。

第 1 期生：田村 亮正会員 (高島市民病院外科；小児外科)

→ New Castle 大学 (The Great North Children Hospital) 修了

第 2 期生：佐藤 力弥正会員 (虎の門病院消化器外科)

→ Colchester General Hospital 修了

第 3 期生：遠藤 睦子正会員 (Radboud University Medical Center Surgical Oncology)

→ Royal London Hospital 修了

第 4 期生：関岡 明憲正会員 (大阪府済生会野江病院)

→ Oxford University Hospitals 修了

IELTS の基準をクリアしているものの新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響により現在も研修先の選考手続きに遅延が生じている。そのため、2023 年 6 月に委員長が再度渡英のうえ、RCS の ISTP 担当理事へ手続きの進展を強く要望し、2025 年も何らかの進展をいただくよう継続的に働きかけている。

本会の選考を通過した候補者は以下の2名である。

平岩 伸彦正会員（東京ベイ浦安市川医療センター）

北田 智弘正会員（大阪市立大学小児外科）

※上記の他に第4期生として2名が、IELTSのクリアを目指している。

※上記候補者の進捗状況に鑑み、現在本会での募集は停止している。

## 7. 海外学会との交流について

将来計画委員会「国際化推進」ワーキンググループにおいて、南アフリカとインドを中心とした国際交流促進が検討され、アフリカのCOSECSAとインドのASIの会長を本会定期学術集會に招待することを開始している。

また、COSECSAとASIについては、各学会から選出された若手外科医（各3名）に本会がトラベルグラント（COSECSA：4,000ドル、ASI：2,000ドル）を支給し発表の機会を提供している。また、発展途上国への貢献事業として日本の施設見学のサポートも行っており、各受賞者が希望する施設を会期前後に見学予定である。

第126回の受賞者は、以下の6名である。

### 【COSECSA】

Yves Yankunze 先生 Vincent Mulenga 先生 Boyd Lawrence Zimba 先生

### 【ASI】

Rajiv Anbu 先生 Anagha P R 先生 Saif Khan 先生

韓国外科学会（KSS）とは他国の例に準じてMOUを締結した。来年以降、お互いの学術集會において、ジョイントセッションを開催する予定である。

イタリア外科学会（SIC）ともMOUの締結に向けて検討している。

台湾外科学会（TSA）とはお互いの学術集會において、ジョイントセッションを開催する。今年は以下のプログラムを開催する。

### 【日台合同セッション（於台北）】

日 時：令和8（2026）年4月26日（日）8：00～10：00

テーマ：Surgical excellence for Healthy World

### 【日台合同セッション（於札幌）】

日 時：令和8（2026）年4月23日（木）8：30～9：30

テーマ：Surgical Training in the New Era：Balancing Work-Life and Skill Acquisition